

ここ数年「上手な勉強の仕方がわからない」という子どもが増え、小4～高3生を対象とした調査では約7割にのぼるとい調査結果（子どもの生活と学びに関する親子調査：2022）があります。

## 生徒によるガイダンス



先日、泉南中学校では、年度初めの「授業ガイダンス」が行われました。「授業ガイダンス」というと小学校ではあまり聞きなじみがない言葉かもしれませんが、中学校では年度初めによく行われるガイダンスです。今年度の目標についてや、学校の授業、定期テスト、提出物など、どんな観点で学習評価が行われるかなど、高校入試まで視野に入れた説明などが行われます。



**昨年度のアンケート結果**

- 授業以外で勉強しない人
- 家で計画を立てて勉強していない人

**50%以上**

**今年度のテーマ**

ともに学び、自ら学ぶ



（がぞうのしりょうにはよみがなをつけることができません。ごようしゃください。）

## 6名の生徒からみんなへ



泉南中学校のガイダンスでは、先生からの説明について、6名の生徒による「勉強法」「学び方」の紹介プレゼンが行われました。1人目の生徒より、「これから先輩方からもすごく堅苦しい勉強の話ばかりだから少しだけ俺から行事についてアドバイスさせてください！まず一言『とりあえずやれることは全力でやろう』です。ものすごく上からだけどほんとに行事は思い切りやった方がいいです！」という話から始まり、

- 今年から来た新1年生へ伝えたいこと
- 大事だと思った勉強のこと
- ワークを活用した勉強方法
- 自分で一問一答を作る
- インプット（内容の理解）とアウトプット（問題の実践）
- テスト1、2週間前の勉強方法

などを、スライドを使って伝えました。素晴らしい内容でしたので、いくつか紹介します。

今年からきた新1年生へ

とりあえずやれることは全力でやろう！

今年からきた新1年生へ

これから色々なことがあると思うけど、思いきりやろう！！



・勉強よりスマホ

・提出物はおわらせてもあまり点数があがらない

2つのポイント

1つ目 ワークを使った勉強方法

2つ目 モチベーションを上げる

1つ目 ワークを使った勉強法

答えが隠せる→赤シートを使う!!

答えが隠せない→プリントをもう一度解ける状態にしておく

印をつける

解き直す

ポイント☆

教科書を使いながら勉強する!!!!

大事だと思った勉強のこと

○課題

○作業をやらせず復習を思いやる!

○自分にあった勉強方法をさがす

○答えを先に見てはじめる

○友達とやる

○オリジナルノートをつくる

○教科書を使う

やり方

1. 範囲の中から問題を決める
2. 文章を問題文にする
3. 問題を読み上げて、数秒あけて答えを読む
4. それを録音する

例：歴史 問題、1789年にフランスで起こった革命をなんというか。答え、フランス革命

日々の授業でできること

- ・とにかく提出物を出す（実技教科は特に!）
- ・プラス点をどんどん稼ぐ
- ・授業プリントは語句の穴埋めだけでもする
- ・スマホがやめられない人は少しずつ減らす

習慣的な勉強

インプット（内容の理解）

- ・テスト前の勉強を最低限に抑えて、焦らないように事前に授業などで基礎を固めておく
- ・授業内でやった内容の復習

アウトプット（問題の実践）

- ・友達とやった内容の問題を出し合う
- ・学校側から出されたプリントの中や教科書の中にある問題を解く

テスト1、2週間前の勉強方法

テスト2週間前	テスト1週間前
ワークでわからなかった部分の補強	プリントの復習 + 今までの内容をノートなどにまとめる
実技教科勉強	ワークでわからなかった部分の補強

要点

- ・普段の勉強でインプット、アウトプットを繰り返し、ワークを空いた時間に進めておく。
- ・テスト1、2週間前は普段の勉強の復習をし、実技教科の勉強もする

（スライドはすべて生徒作成のもの）

生徒が自分の経験をもとに、内容も資料もすべて自分たちで作ったそうです。

## 自ら歩む力を育てる



子ども自身がNINO・NRTといった教育検査の結果をもとに、自分の得手・不得手を知り、自主学習の内容を考える小学校

生徒会が中心となり、ウェブサイトから泉南市の学力課題を調べ、自分たちの授業の在り方を考える中学校

など、今回紹介した中学校以外にも、泉南市の小中学校では「勉強の仕方」「学び方」に注目し、取り組みを進める学校が増えてきています。

子どもたちが「勉強の仕方」を学ぶ中、教師の支援内容は、鉛筆の持ち方からノートのとり方、振り返りの仕方など多岐にわたります。また、支援することと並行して、「支援の外し方」も大切です。子どもの成長をみとり、適切なタイミングで支援を外す＝自立へと導いていく。これは、学校に限らず、家庭においても言えることではないでしょうか。

「あれやった？これやった？」など、大人がなんでも確認するのも、反対にただただ放っておくのもなく、大人は子どもの現在地（状況・力）を把握し、自ら歩む力を育てる。学校でも家庭でも、今後一層この視点は欠かせないものとなるでしょう。

